

石原小学校150周年記念ソング

「僕らがつなぐ物語」関係者座談会 令和4年8月6日

於 石原小学校 校長室

参加者 フジクラ楽器社長 藤倉久典さん

シンガーソングライター 有梨さん

編曲 カラオケ作成 Comode 代表 松井 清 さん

ギタリスト 長谷川 舜 さん

進行 石原小校長 関根達郎



関根 僕らがつなぐ物語 誕生秘話です。私が150周年行事には音楽があったらいいなと思っていたのは、令和3年8月頃からです。でも実際に形にすることはどうしたらよいかを考えていました。そこでベトナムの校歌を作ったと言う経歴、学校の音楽の先生もやっていたという経歴をみて有梨さんをお願いしようとは思っていました。

藤倉 有梨さんにあったきっかけは何ですか。

関根 有梨さんは配信ライブをやっていたのを見てライブにしてみました。「白いクレヨン」という歌がすてきでイメージに合っていました。去年の教頭 須藤教頭先生とも「元気の良い応援歌みたいな曲でみんなで歌える歌がいいね」といっていました。そこで私が有梨さんにおねがいましたよ。「いいですよ」って言ってくれたんですよ。(笑)

有梨 言いました (笑)

一同 言ってないっていったらここに集まってないですよ(爆笑)

有梨 「いいですよ」とは言ったんですけど、「できるかなあみたいなの。」気持ちでしたすごい時間がかかってしまって、、、

長谷川 だいたいこの話をもらって 歌詞と曲ができてデモテープになるまでどのくらいかかりましたか？

関根 お願いしたのは12月頃でしたね、。まず曲が先にできたんです。2月中旬です。

有梨 でもメロディも全然違うやつだと思います。関根さんから「ドラムがこんな感じ」というイメージを伝えてもらって、曲を適当に作って送ったらそれで結構盛り上がってくれて、、、でも今は、それは聞きたくないです。

一同 それききたいです (笑)

有梨 それを使って 関根さんが動画に載せて見せたいって言うから「それはちょっと、、、」と言いました。

松井 それはやめてくれといったんですね。

関根 私はその曲をすばらしく感じて、当時の教頭先生や実行委員の保護者やOBの方々にいろんな人に聞いてもらいました。

有梨 そのときの雰囲気は変わってないですが、やっぱり、今は聞きたくないですよ。

関根 プロの方々は途中経過をだされるのをいやがりますよね。このあと子供たちに作詞の募集をかけました。時間がなかったので締め切りは2週間でおねがいました。そしたらたくさん応募してくれました。(児童の作品を見てもらう)それを有梨さんに渡しました。

松井 (子供たちの作品の字をみて)字が上手

藤倉 みんな字が上手ですね 俺より上手です。

長谷川 詩を書いてくれるとき音源はないんですね。すごいな。

有梨 こどもたちはみんなリズムも考えて書いてくれてますね。子供たちの作品の中からたくさん言葉ももらいました。「引き継がれる」「絆」など、子供の歌詞をみて自分の家で言葉に線を引きました。

関根 本番は7月9日なので、逆算していろいろお願いしました。今回お願いする中で一番大事なのはアレンジだと思っていました。

藤倉 逆算したわりには この依頼は直前でしたね（笑）

長谷川 バンドアレンジの依頼ですか？

関根 バンドアレンジです。バンドの曲を想定していました。詩を有梨さんに詩を渡してできあがったのは5月はじめです。ゴールデンウィーク中でしたね。本物のアレンジを作ってもらうために相談しようと思った時に一番に浮かんだのが藤倉さんだったんです。

藤倉 関根校長は中学時代のバレー部の先輩です。その人に「藤倉さん」と言われて「何事だ」と思いました。ゴールデンウィーク中に店に来て、「さんづけ」で呼ばれて、びっくりしました。そのときに「楽譜はあるんですか」と聞いたら「ない」というんです。そこで私は「楽譜がないとだめですよ」と伝えました。先輩から「本格的にやりたい」と聞いてレベルの高いものを作らないと思って浮かんだのが松井くんです。

関根 当時私は「だいでいい」といって「楽譜なくてもいいですか」といったら、藤倉さんとその弟さんも「それはだめです。ちゃんとした作品を作らなくてはいけない」と強く言われ、プロの人は「すごいんだな」と同時に「めんどくさいな」と思ってしまいました。デモテープでも素人のみんなは「いいね」と言ってくれるんです。だからそんなことをやってしまったんです。

藤倉 だって 作品で残っちゃうからね

関根 本気で音楽に携わっている人はこんなにしっかりしているんだと思いましたが、私が急がせて頑張っただけでここまで作ってくれた有梨さんに、ここでさらに「楽譜をすぐ書いて！」と頼むのがつらかったです。

有梨 私も曲の中で迷ってる所もあったのですが、今回はアレンジでなんとかいい感じにしてもらいました。

松井 イメージとピアノのデモテープをもらって大体自分で編曲しました。キーボード・ベース・ドラム・ブラスなどを入れて、長谷川さんに送ってギターを入れてもらいました。

長谷川 最初、曲をもらって1カ所「ここ、これいいのかな」と思ったところがあるんですよ コードとメロディが当たるんですよ。(あたる→コードがしっくりこない)

松井 歌だと気にならないんですよ 最初送ったときシンセサイザーで音を撮って送ったんです。でもシンセサイザーで曲とってギターで合わせると「すごいぶつかる感があるのかなー」と思ったんです。

長谷川 人の声って曖昧だけど、音をちゃんととると当たるんですよ。落ちサビのところですよ。2番のあとのところですよ。別に間違いではないんですよ。そういうところが実際合わない和不快な感じが発生することがあるんですよ。

有梨 ピアノではそのところは普通に弾きます。

松井 気にならないよね。

長谷川 自分的に「ジャズ過ぎない？」って感じでした。

藤倉 スケール上にはないFの音の処理の仕方ですよ

長谷川 「これ松井さんほんとにいいんですか？」ってことになるんですよ

松井 歌だとたぶん気にならないですよ。そこは舜君（長谷川さん）に任せて一発ですよ。こういう人をプロっていうんです。

長谷川 ほんと「こんな感じ」だけできたんですよ。そのためにギターはどうやってこの曲に落とし込むかだけを考えてやったんです。これにかかった時間はたぶん3時間です。ここがたいへんだったんです。

以下 略 後半につづく